**現代文Ｂ　単元指導計画**

１　科 目 名　　現代文Ｂ

２　単 元 名　　小説

３　教 材 名　　小川洋子『果汁』

４　単元の内容

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **単元の目標と評価規準・評価方法** | 1. **単元の目標**  |  | | --- | | ア　登場人物の表情や細かな反応などを関連づけて心情を読み取ろうとする。（関心・意欲・態度）  イ　文章を読んで、人物・情景・心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。（読む能力）  ウ　文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。（知識・理解） |  1. **単元の目標設定の理由**   ・本校の生徒は授業に対して前向きに取り組むことができ、授業を通してあらすじを読み取ることができる。ただ、文章を深く読み取りいくつかの事柄を関連させて考えたり、想像を膨らませながら読みを進めたりするなど主体的に学習を進める力は十分とは言えない。登場人物の様子を丁寧に確認しながら心情を読み取る力を身につけさせたいと考え、目標を設定した。   1. **中心となる学習活動**   ・文学的な文章を読んで，人物の心情について話し合うこと。  ・人物の心情について文章に書いて表現すること。  ・作品内の時間の流れを把握し、情景描写や比喩に注意して心情を読み取ること。   1. **言語活動の工夫**   ・各自で読み取った登場人物の心情をグループで共有し、文章でまとめる学習を通して、個人の読み取りがグループ交流によって深まることを感じられるようにする。  ・グループの発表をＩＣＴ機器で提示することで、それぞれの意見を比較しやすくする。   1. **評価**  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | |  | **評価規準** | **評価方法** | **状況Ｃの生徒への対応** | | **関心・**  **意欲・**  **態度** | 登場人物の表情や細かな反応などを関連づけて心情を読み取ろうとしている。 | 観察（机間指導）  点検  （ワークシート） | 登場人物の心情の変化のきっかけになったことに気付かせる。 | | **読む能力** | 「彼女」の心情を表現に即して読み取り、異なる立場から読み深めている。 | 観察（机間指導）  点検  （ワークシート） | 心情が想像できる描写を提示する。 | | **知識**  **・**  **理解** | 情景描写がもたらす表現上の効果を理解している。  比喩表現を理解している。 | 観察（机間指導）  点検  （ワークシート） | 本文と異なる描写だった場合を考え、比較させる。 | |

５．単元の指導計画（全９時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 次 | 主な学習活動 | 指導上の留意点・評価方法 |
| １ | ・通読し、初発の感想を確認する。  ・重要語句を調べる。 | ・初発の感想で疑問に思うことを挙げ、以降の授業に課題意識をもって主体的に取り組むようにさせる。 |
| ２ | 第一段落読解  ・登場人物や場面のイメージを確認する。  ・「僕」が「彼女」の依頼を承諾した理由を考えながら、「彼女」のイメージと「僕」の「彼女」に対する思いを理解する。 | ・「西日」や「書架の陰」などの表現に着目させ場面をイメージさせる。  ・「身体が影の中へ吸い込まれてゆきそう」とはどのような状態であるのかを手がかりにさせる。 |
| ３ | 第二段落読解  　・「彼女」と「男」との関係を確認する。  ・ふたりの互いに対する思いを想像する。  ・「彼女」の外見や雰囲気を読み取り、イメージする。 | ・回想部からふたりの関係を整理し、互いに対する思いを想像させる。  ・ふたりが「礼儀にかなった挨拶をしなかった」場面を手がかりにさせる。 |
| ４ | 第四段落読解  　・レストランを出たあと黙って歩き続ける場面、キーウイを食べる場面、母と楽器の関わりを確認する。 | ・「キーウイ」の意味には深く触れず「彼女」の様子に注目させる。  ・普段はおとなしい「彼女」の異常ともいえる行動を理解させる。 |
| ５ | 第四・五段落読解  　・時間の流れを確認する。  　・「郵便局の中で流すはずだった涙」、「遠い記憶の一点」とは何かを考える。 | ・本文の表現を丁寧に確認することで、時間の流れを正確に読み取らせる。  ・電話での「彼女」の涙の理由を確認させる。 |
| ６ （本時） | グループ交流・文章にまとめる  ・「遠い記憶の一点」が「彼女」のどのような哀しみに繋がったのかをまとめる。 | ・「遠い記憶の一点」とはいつのことかを食事の場面に戻って読み取らせる。  ・「男」の言葉が「彼女」にどのような哀しみを与えたのか考えさせる。 |
| ７ | グループ交流・文章にまとめる  ・「キーウイ」を食べる場面の意味を考える。 | ・「彼女」の外見と「キーウイ」の見た目、自分を「べたべたに」するように食べる様子に着目させる。 |
| ８ | 全体のまとめと表現  　・「だけど、あの時私……。」ここで言えなかったことを作文にまとめる。 | ・「男」との食事の場面での哀しみを「彼女」の言葉で表現させる。 |
| ９ | 作文発表会・まとめ | ・初発の感想時と比べ、自分の読みがどのように変わったか自己評価させる。 |

６　本時の学習指導案

|  |  |
| --- | --- |
| 本時の位置 | ６時間目（全９時間中） |
| 本時の学習目標 | ア　登場人物の心情について、登場人物の関係や会話に即して読み取る。  　　（読む能力）  イ　自らの読み取りをグループで交流することで深め、文章にまとようとする。（関心・意欲・態度） |
| 事前の準備 | 1. 本時の課題「『遠い記憶の一点』が『彼女』のどのような哀しみにつながるのか」を前時に予告する。 2. 第三段落を読み、内容を振り返っておくことを指示する。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価方法 |
| 導入  ３分 | □本時の課題と学習活動の確認 | ・第五段落「僕」との電話で流した「彼女」の涙の意味を考える。  〈 具体的手順の確認 〉  １「遠い記憶の一点」とは何か。  　２ この場面が彼女にとってどのような哀しみにつながるのか。 | ・前時に課題を予告し、第三段落を読んでおくよう指示する。 |
| 展開  ４２分 | □本文の音読  □読み取り①  □読み取り②    □グループでの交流  □発表 | ・第三段落をペアで音読する。  （レストランでの食事の場面）  ・「遠い記憶の一点」とはどの場面のことか、各自で考えた後、周りの者と相談して確認する。   |  | | --- | | 「男」が『お父さんの分も食べなさい』と言う場面 |   ・この場面が彼女にとってどのような哀しみにつながるのか、第三段落を振り返って文章にまとめて、ワークシートに記入する。  ・個人で書いた文章をグループのメンバーで交流し、グループでまとめて文章にする。  ・グループでまとめた文章を発表する。 | ・「遠い記憶の一点」とはどの場面を指すのか考えながら音読させる。  ・「彼女」の反応に着目させ、「彼女」の心の動きが感じられる部分に気付かせる。  ・数人で相談することで、正確な読み取りになることに気付かせる。  ・第二段落で確認した「彼女」と「男」との関係、第三段落のレストランの場面でのふたりのやりとりに注目させる。   |  | | --- | | 目標アに対する評価規準と評価方法  〔規準〕  ・「男」が「お父さん」と自称した意図、「彼女」が「男」の意図を受け入れ難い心情や、母の死後「男」に頼らざるを得ない状況などを踏まえた文章になっている。  〔方法〕  ・観察（ワークシート・机間指導）  〔状況Ｃの生徒への手立て〕  ・「男」がここで初めて「お父さん」と自称した意図を考えさせる。 | |
| ・メンバーの共通している内容や特徴的な内容を中心にまとめさせる。   |  | | --- | | 目標イに対する評価規準と評価方法  〔規準〕  ・個々の書いた内容を使ってグループの発表内容をまとめることに主体的に関わっている。  〔方法〕  ・観察（ワークシート・机間指導）  〔状況Ｃの生徒への手立て〕  ・メンバーの共通している内容を中心にまとめるように指示する。 |   ・発表内容をプロジェクタで投影する。 |
| まとめ  ５分 | □本時の振り返り | ・本時の感想・自己評価をワークシートに記入する。 | 自己評価の内容  ・「彼女」の哀しみを理解できたか。  ・グループ交流を通じて自分の考えが深まったか。 |